

Communication

中国特殊グループ コミュニケーション

■中国特殊グループ 〒745-0801 山口県周南市大字久米3078番地の1 TEL.0834-26-0500 <http://www.chutoku-g.co.jp>
■2010年5月発行 中国特殊グループ社内報「コミュニケーション」

Vol. **9**

「成功の実現に向けて」



中国特殊グループ
副代表 橋本ふくみ

みなさん、こんにちは！

早いもので、8月にスタートした今期も8ヶ月が経過しました。現在、順調に目標をクリアしている部署とそうでない部署とがあるようですが、私たちが合言葉としている『出来ないという言葉は言いません。出来る方法を徹底して考えます』を今こそ実行して頂きたいと思います。

私たちは、今期の経営計画より、目標設定順位を「社員とお客様の満足度」や「一人当たりの資格保有率」、「改善提案件数」を上方に、従来からの売上目標を下方へと変更せました。このことについては、事業発展計画の発表会でも説明しておりますが、要するに売上さえ上げればそれでよしとする会社を望まないからです。

今期のスローガンをみなさんは憶えていますか。『野火烧けど尽きず、春風吹いて又生ず』です。どんなに野火が焼き尽くしても、根さえしっかり張っておけば、春が来てまた新しい芽が生えてくるという意味合いです。

私たちは今、不況という大きな逆風により、なかなか思うように前進出来ないこともあります。しかし、決して人としての基本や在り方を見失ってはなりません。4月1日より朝礼に新たなプログラムを取り入れました。倫理(道徳)の勉強です。と言っても難しいことなく、私たちが小学校で普通に習ってきたことばかりです。

私は、近頃よく『如何に在るべきか、如何に為すべきか、如何に成るべきか』を自問します。私という人間は、何のために存在し、どのような行為をすべきなのか、そしてどんな人間に仕上げたら良いのかということ。

ある日、友人より一枚のDVDが送られて来ました。タイトルは、『私が一番受けたココロの授業～与える者は与えられる』でした。そこには、正に、人が生きる意味、働く意味、幸せとは何かが収録されておりました。近いうちに全員にお見せします。

今期の重点施策の一つに、『ライフプランの策定』があります。自分の人生の計画表を作るのです。

《ある農夫の一日》(※)という話がありますが、みなさんご存知でしょうか。

日々の雑用に追われ、本当に大切なことを忘れてしまうことです。一年が経つのは何と早いことでしょうか。この調子で人生もきっとあっという間に終わりが来ます。

60歳の自分を想像してみてください。精一杯働いてきた充実感と次の人生に向けてのワクワク感を持つことが出来ているでしょうか。今や人生85年です。仕上げの残り25年間は、今現在をどのように生きるかによって全く異なったものになるのです。

仕事をしていると、毎日辛いことや苦しいことがたくさんあると思います。近頃では、今までなくても良かったことを次から次へと要求されますね。やれパソコンを使えだの、インターネットで調べろだの、本を読めだのうさいったらありゃしない。身だしなみ？どうせ汚れるんだからこれで良いじゃないか。だいたい他社はどこもやってないのに、などなど。みなさんの声が聞こえて来よう。しかし、これも全て将来の自分ための貯蓄だということを知っておいて下さい。そして、私たち一人ひとりが少しずつでも成長すれば、自ずと会社という組織も発展繁栄するのです。

さあ、みなさん、心を積極的にして下さい。どうせやるなら、明るく、元気に、そして楽しく仕事をしようじゃありませんか。

(※)「ある農夫が、朝早く起きて畑を耕そうとした。ところがトラクターの燃料が切れていたのので近くまで買いに行ってきた。途中でブタの餌をやっていないことを思い出して納屋に餌を取りに行った。すると、ジャガイモが発芽しているのを発見した。これはいけないと思い、ジャガイモの芽をとっているうちに暖炉の薪が無くなっていることを思い出して薪小屋へ足を運んだ。薪を持って母屋へ向かっていると、ニワトリの様子が変である。どうも病気にかかったらしい。とりあえず応急処置を施して、薪を持って母屋にたどり着いた頃、日がトッブリ暮れていた。農夫はヤレヤレ何かとせわしい一日であったと思いながら、一番大切な畑を耕すことができなかったことに気がついたのは床に入ってからであった。」



『エコ・ファクトリー認定にあたり』



株式会社 リライフ
代表取締役 吉本英子

早いもので、今期も8ヶ月を経過しました。その中で私が一番うれしかった事は、弊社が山口県の高資源化率達成事業所として「エコ・ファクトリー」に認定された事です。

認定にあたり、今年3月山口県庁で行なわれた授与式に出席しました。今回、認定を受けた事業所は、リサイクル部門5社、エコ・ファクトリー部門10社、ほとんどが大手企業様でしたが、同席にて認定証を授与された事に大変意味があり、とても感動しました。

弊社が、処理が難しいと言われる、塩素含有汚泥の脱塩処理の本格稼動に入って約8ヶ月になります。計画に2年、許可取得とプラント建設に1年と計3年を掛けての完成でした。再三にわたるテストを繰り返し行ない、セメント会社様の搬入テストに合格し、初出荷した時は「皆よくやった！」と大声を上げ思わず拍手しました。

今までは、プラント建設は業者任せでしたが、当プラントは自社での設計、しかし、想像以上に困難を極め、また排出元企業様との約束の期限もあり、社員全員、今までにない苦勞をしました。難題にぶつかる度に、試行錯誤を繰り返し、時にはケンカをしながら、やっと約束の期限に完成させる事が出来たのです。

プラント建設も初めてのことばかりでしたが、もっと大変だったのは、建設工事を発注する段になった時、突然の世界的大不況となり、建築資材が急騰、その上製造業界は生産縮小に入るなどした事でした。一時はどうなるかと心配しましたが、お客様、社員全員の熱意により、無事に完成させる事が出来ました。

「全社員が目的に向かって本気で取り組めば、出来ない事はない」と今回のこの認定が証明してくれました。

最後に、このエコ・ファクトリー認定は、ご協力頂いた全ての関係者の皆様の御協力の賜物であると、深く感謝申し上げます。

本当にありがとうございます。

山口県周南流域 下水道浄化センター

下水道処理水

塩素含有汚泥
排出事業者

(株)リライフ



脱水・脱塩処理施設

脱塩処理汚泥
セメント工場

「私が日々考えること」

中国特殊(株) 代表取締役 橋本ふくみ



『責任』と『責任感』

とある会社、元々は家族で始めた小さな町工場だった。家族みんなで休みも返上し、遅くまで仕事をしていた。

しかし、高度成長期の波に乗って受注が増し、家族だけでは回らなくなったので、従業員をその都度一人、二人と増やしていった。

気づいたら、総勢20人。人は増えたものの、いつも忙しい人やヒマな人が居たり、何か失敗があれば自分の責任ではないと揉めることも多くなり、社長は、この20人に明確な役割と責任を定めることにした。

会社の中に、営業部と総務部、事業部の3部門を設置し、その中に社員を所属させた。A君は、それまで主に取引先との折衝を行っていたので営業部に所属させ、Bさんは、請求書を発行したり電話を受けたりしていたので、総務部へ。社長は、出来るだけわかりやすいようにと、文書化して周知徹底させた。これで以前のような問題は無くなると安心していた。ところが、今度は、また新たな問題が起こったのである。

取引先から請求書が届いていないというクレームがあったのだ。A君は、「僕は営業部だから、請求書が発行されたかわかるはずがない。それは総務のBさんの仕事でしょ。」Bさんは、「A君の請求伝票が締め切りに間に合わなかったの。だからA君の責任でしょ!」と言い合っ、これまた責任のなすり付け合いとなったのだ。社長は、両者を叱責しながら痛感した。『責任』と『責任感』の違いを。

A君は、お客様から受注を獲った後、総務のBさんが請求書を出し、条件通りに支払いがあったかどうかまで確認するという責任感が足りないのだ。Bさんも

同様である。

『責任』と『責任感』。似ているようで違う。同じ屋根の下で働くからには、『責任感』のある行動をしたいものである。社長は、こんな人材を求めている。

あの頃は良かった?

今現在の自分を表現する時、いつと比較して良いとか悪いって思うのかについて。

私は、5年前に腰の手術をした。激痛にさらされて、立っているのも苦痛だった。あの頃は、鎮痛剤が手放せず、その効用も次第に薄れ、「もっと強い薬を下さい!」と言って主治医を困らせたものだった。

その後は、結局、快方に向かうどころか悪化するばかりだったので、仕方なく先生と相談し手術をすることになった。

結果、あの激痛は嘘のようになくなり、日常生活にも不便を感じないほど快復し、現在に至っている。そんな私ではあるけれど、今でも時には、疲労が溜まったり、身体を使い過ぎた時など調子が悪くなる。そんな時、「どうして?昔はこのくらい平気だったのに。」と、落ち込んだりしていた、ある時まで。

そんな事を繰り返していた私だけど、ある時、ふと思い出したんです。あの激痛の日々を。あの時に比べれば、全然平気なのです。なのにもかかわらず、一番良かった頃と比べてるなんて愚かだなんて事に気づいたというか。

だから、思うに、いつまでも過去のベストな時と比べる事など無意味なのです。万物は流転するんだから、比較すること自体にあまり意味がないように思えたりするのです。

今をどう感じるか、その基軸をどこに置くか、それが大事なんだと思います。

「守」「破」「離」

「受け継がれた物を守り、現代合わなくなった物を捨て去り、新しく、独自の工夫を加え、そして、今までの型を越える」こと。指導者から何かを学び始めてから、ひとり立ちしていくまでに、人は、「守」「破」「離」という順に段階を進んでいく。

(「中特社長の日想ブログ」より抜粋)

お客様紹介 中国電力(株)岩国発電所 発電課様

環境問題の対応については、昨今の地球温暖化問題の顕在化などを背景に、社会的に幅広い範囲の取り組みが要求されております。中国電力では、1993年1月「中国電力環境行動計画」を策定し、地球温暖化問題や循環型社会形成への対応など事業活動を取り巻くさまざまな環境問題へ積極的に取り組んでいます。

当社は、2012年度までに当社から排出する廃棄物の再資源化率を99%以上に高めることを目標として取り組んだ結果、2008

年度は98.8%でした。

リライフ様とは、当所の排水処理装置から発生する汚泥の埋立処分先に苦慮していた2006年12月に、ご縁があって処理をお願いすることとなりました。その後、埋立処分されていた汚泥は再資源化が図られることになり、当社の進めている「廃棄物ゼロエミッション」に貢献して頂き感謝しております。

今後とも当社の事業活動にご協力して頂くとともに御社の益々のご発展を祈念しております。



写真左上から 喜代濱様 須田(副長)様 杉原様
藤中様 人見(課長)様 土井様

「3R3R3R…」

皆さん、3Rってご存知ですか？

「何をいまさら！」と言うなかれ、知っている様で知らない3Rについて、ここであらためてご説明いたします。

3Rとは、ゴミの減量化における優先順位の考え方です。次の意味を表し、それぞれの頭文字をとって『3R』と言われています。

リデュース (Reduce)

不要となる物の「発生量」そのものを減らすことです。発生抑制とも言いますが、ゴミ減量を考える際に、最も優先的に取り組むべきことです。

繰り返し利用したり、長期間使用可能な物に変えるなど、家庭ゴミのリデュースの考え方として次の様な物があります。

①詰替商品(シャンプーや調味料など)や長寿命製品(蛍光灯・やぶれにくいソックス)の利用 ②量り売り・バラ売りを積極的に行なう。 ③食材を使い切る、または必要量以上は買わない。 ④マイバック利用でレジ袋の消費を削減。 …etc

リユース (Reuse)

まだ使える状態にも関わらず、捨てられ不要となった製品や部品が、主には使用者を替えつつその形・機能を活かして再利用されることです。

例としては、中古品販売(家具・家電・古着)や一升ビン・ビールビンなどです。

但し、ビンなどを効率的にリユースするには、そのための仕組やルール作りが必要になる為、事業者・市民・行政の連携などが重要なポイントになります。

リサイクル (Recycle)

不要になった製品を、一度原材料に戻し、再び利用することです。

目的としては、エネルギー資源を含む天然資源の消費の抑制と最終処分量の削減が主なものとして挙げられます。また、リサイクルでも物質を回収するのか、エネルギーを回収するのか、そのどちらを優先させるかにより、最適なリサイクル率や適用されるべきリサイクル技術が異なります。そのリサイクルの方法として3つの分類で整理すると次の通りです。①マテリアルリサイクル…素材・物質を回収。(アルミ缶を再融解してアルミ缶を再び製造する等)②ケミカルリサイクル…化学原料を回収。(プラスチックを分子まで分解し化学原料として再利用する等) ③サーマルリサイクル…エネルギー・熱を回収。(燃焼した際の熱を利用して発電、または温水として熱を回収・利用する等)

また、リデュースの前に、使用しないという意味のリヒューズ(Refuse)を置く4Rという用語も用いられます。更に、リペア(Repair修理する)リフィル(Refill詰め替える)リメイク(Remake作り直す)などを加えて、4以上の数字をとる場合もあります。

リデュース！いまFUROSHIKIがこんなにお洒落！以前と違い最近では素敵な風呂敷がたくさんあります。

(株)吉本興業 代表取締役 吉本妙子

ショッピングにはFUROSHIKIを持って出掛けよう!!



「Book Cafe」

「潜水服は蝶の夢を見る」
ジャン＝ドミニック・ポービー著
河野万里子 訳

始めに著者のジャンを紹介しよう。彼は、ジャーナリストとして数紙を渡り歩いたのち、世界的なファッション雑誌、『ELLE』の編集長に就任し、名編集長として名を馳せた人物だ。しかし、1995年12月8日突然脳出血で倒れ、ロックトイン・シンドロームと呼ばれ、身体的自由を全て奪われた状態に陥ってしまう。当時は、まだ働き盛りの43歳だった。彼は、病床にありながらも、唯一動かせる左目の瞬きだけで本書を「執筆」した。本書は大きな反響を呼び、世界28カ国で出版される世界的なベストセラーとなったのち映画化もされている。

しかし、1997年3月9日突然死去。本書がフランスで出版されたわずか2日後のことだったという。

「潜水服」は、全身麻痺となってしまった自身の体を意味し、「蝶」とは、蝶々のように思うまま、ひらひらと飛びたいという自身の心を表している。

医療技術の発達により、死を免れた代わりに与えられた「ロックトイン・シンドローム」という、頭のとっぺんからつま先までの全身の麻痺。けれど、意識や知能はまったく元のまま。ジャンは、この状態を「自分という人間が、内側に閉じ込められてしまったようなもの」と表現している。

本書の執筆にあたっては、血の滲むような努力があった。出版社のクロード・マンディビルがアルファベット板を順に読み上げ、ジャンが瞬きをした文字を書き留めていくという気の遠くなる作業だ。だが、その結果、「植物人間状態」となってしまった人の心の内が私たちに伝わ



ることとなった。絶望と希望と。人は、窮地に立たされたとき、その人格が試される。彼のその人間性の高さにも胸を打たれる。人として、「如何に在るべきか」を自問させられる名著である。

橋本ふくみ

Information

「第4回 HAPPY/HAPPY 勉強会」

「お客様がHappyに、あわせて私達もHappyになろう」という目的で始まったHappyHappy勉強会。

年1回開催し今年で4回目を迎えることとなりました。

今年は講師に、日本HR協会 KAIZEN事業部の東澤 文二(とうざわ ぶんじ)氏をお迎えし、「手っとり早い改善」というテーマでご講演頂きます。

東澤氏の講演は、熱気に溢れ、講演を聞いた人からの強い薦めもあり、今回実現する運びとなりました。講演の日程予約をとるのも大変でしたが、ようやく下記の日程で開催となり、準備する私達も期待に胸膨らませております。

「手っとり早い改善」 講師 東澤 文二氏
平成22年6月4日(金) 15時から17時
下松市地域交流センター2F やまももホール
受講料:おひとり500円。

当日、募金という形で募金箱に投入して頂き、全額寄付とします。

もちろん、500円以上、募金下さっても結構です。

一般の方々の参加もできます。詳しくは、中国特殊(株)0834-26-0500(担当:石田)まで。

「浸水対策は大丈夫!?!」

普段目にしない側溝や桟の中に土砂やごみがあると雨水が溢れやすくなります。

特に梅雨時期を前に配水管、側溝などの清掃や調査をお勧めします。



対象は個人宅から大規模排水路(工場など)まで、おまかせください。

無料診断 5月10日(月)～31日(月)

詳しくは中国特殊(株)0120-105-568(担当:石田)まで。

「収集車の絵を募集します」

■テーマ:環境(海・山など なんでもOK)

■対象者:小学生

■募集期限:8/20迄

環境をテーマにした楽しい作品をお待ちしています。



詳しくは(株)吉本興業0834-25-0423(担当:諫早)まで。

平成22年度 新入社員紹介



(株)吉本興業
営業統括部 諫早 正行

廃棄物処理業へ携わり、日常生活では知りえないことばかりでとても面白いと感じています。

今まではただのゴミとして扱っていたものがどのように収集されて処分されているかを学ぶと、道端に落ちているものにすら関心がわくようになりました。

今後もより多くのことを学び、多くの人と関わっていったことを会社で活かせるよう努めていきます。



(株)リライフ
リサイクル事業部 桑原 浩司

平成22年3月4日入社しました、桑原です。入社してはや2ヶ月がたちました。

始めは、新しい土地での生活、会社で馴染めるか不安でしたが、上野部長を初め、リライフの方々の人柄、熱意に今までの不安はなくなりました。「これから多くのことを学び、みんなの力になりたい」という気持ちでいっぱいです。

困難や分からないことが多々あると思いますが、ご指導の程よろしくお願い致します。



中国特殊(株)
技術CS統括部 山本 勉

四月に入社した山本勉といいます。出身は山口大学理学部生物・化学科で、有機化学を専攻していました。在学中に環境問題について考える機会があり、環境に関係する会社に勤めたいと思い、中国特殊に入社しました。

趣味はパソコン等の機械をいじったり、ドライブに出掛けることです。仕事をしていく中で他の趣味もできたらいいと思います。これからは一生懸命頑張って早く一人前になれるよう努力します。よろしく申し上げます。



中国特殊(株)
技術CS統括部 和田 聡志

私は見た目の容姿から「意外」とよく言われるのだが小学4年から大学に入るまでずっと運動部に所属してきた。だからといって他の人に比べて別に運動神経がいいとか身体的な能力が高いとかいうわけでもない。

小学生で始めた野球はスポーツが大好きだとか体を動かす事が大好きだとかいう理由で始めたわけではない。ただ単に人に誘われたからだ。だがやってみると野球がどうかというよりも、みんなで一つになって、一つの目標に向かってやるというのがとても楽しかった。きつい時に支え合える仲間がいるというのはとても恵まれた環境だと思う。

もちろん社会はそんな甘い場ではないので中国特殊グループに入ったからには自分に厳しくグループの中核を担える人材にならうと思う。よく人からやる気のなさそうな顔と言われる私だが中学校の恩師から頂いた「臥薪嘗胆」を胸に秘める野望だけはだれにも負けないつもりだ。もし時間が出来れば学生時代にやっていた音楽をやりたい。

「社員の趣味紹介」



高嶺の花

朝から土砂降りの雨だった。

7月の原生林内はガスで1~2m先が見えない。数日前の強風で倒れたのだろう、樹皮も見えない程、シダ・コケ類にびっしりと覆われた直径20cm前後のブナの若木が足元に転がっていた。

倒木をまたいだ瞬間、薄紅色のスマレが数株目

に飛び込んできた。「スマレがブナの樹上に咲くこともあるのか・・・」。空气中湿度の高いブナ林内では樹上に他の植物が根付く事は珍しくはない。

倒木をまたいで2~3分程歩いたらどうか、全身が凍りついた。「ヒナチドリだ」。ガスの中、今歩いてきた踏み跡を慎重に辿りながら引き返し、倒木上を覗き込んだ。モノクロの景色の中に花びらの薄紅色がくっきりと浮かび上がっていた。

子供の頃から博物好きで、余程相性が良かったのか、山口県内ではほとんど記録の無いニホンリス、オオワシ、オオゴマダラといった珍種に良く出くわした。文献を調べては動植物・昆虫の希少種を次々と見つけ出した。唯一、山口県の最高峰、寂地山(標高1337m)に自生する野生蘭「ヒナチドリ」だけがどうしても見つからなかった。まさに「高嶺の花」そのものだった。

気がつけば、探しはじめて20年、登山回数は300回を超えていた。だが、まだまだ終わらない。

今現在も山口県内では記録の無い2cm程の小さなクワガタムシ、「ツヤハダクワガタ」をはじめ「オオトラカミキリ」や「ムカデラン」など、自分の足と目で見つけ出したいものはいくらでもある。

宝探しは死ぬまでやめられない。

(株)吉本興業 環境事業部
サービスグループ 松山 道律



編集後記

社内報Vol.9 今回も無事、発行することが出来ました。これも、皆さんのご協力のおかげと心より感謝しております。本当にありがとうございます。

なお、皆さんもお気づきのことと思いますが、今回より年2回発行をさせていただくことになりました。

今まで以上に、読み応えのある内容にしていきたいと思っていますので、今後とも宜しくお願いします。